

はじめに

ここの所気温が一気に上がり、春を飛ばして夏が来たような日が続いています。ついこの派遣留学報告書が最後の一つとなり、交換留学が終わるのだと実感しています。1年は長いと思っていた留学期間でしたが、今になると帰国が残念に思えます。今月はこれまでの留學生活のまとめを報告させていただきます。

Intensive English Institute (IEI)

5月の終わりに渡米し、まずは英語に慣れるためとしてIEIで授業を受けました。思い出すと知り合いも友達もない不安でさみしい始まりでした。最初はクラスメイトとほとんど会話ができませんでしたが、1か月もすると徐々に会話が増え友達と言えるほどの会話が楽しめるようになりました。最も驚いたのはクラスメイトの発言回数が多かったことです。テストで同レベルの人が集まっているのに、自分と違いなぜ彼らはあんなに発言できるのだろうと悩んでいましたが慣れてくると謎が解明されました。彼らはただ自分の思ったことを言っているだけで、先生の質問に対して明確に回答しているわけではなかったのです。さらに発音も文章も滅茶苦茶で理解できる先生がすごいのだと知りました。彼らに聞いてみると発言しないほうが問題だといわれ、その後私も授業中に積極的に発言するようになりました。やはり自分から積極的に行くことが、英語をしゃべれないという問題を突破したのだと思います。

University of Illinois at Urbana-Champaign (UIUC)

クラスが始まるとその授業のスピードと内容、長さが最初の壁でした。特に先生の黒板に書く内容をノートにとりながら説明を聞いて理解するには時間がかかりました。先生が何を言っているのか理解するだけでも大変なのに、それに付け加え先生の板書を理解しながら書くというのは今の私でもできません。授業の大半を先生の説明の理解にあて、あとでノートを読んで理解しようとしたのですが、スペルミスが多すぎて何が書かれていたのかがわからないことが多かったです。またクラスのスピードにも驚かされました。日本では約200ページの教科書の半分近くをやっていましたが、アメリカでは約1000ページを超える教科書のほとんどを4か月で学ぶため1週間で一つの章が終わることもありました。しかしクラスではほとんど教科書を使わないので、事前の予習で読む必要がある範囲が広く、読むだけで2時間を超えることもありました。クラスは教科書を読んで理論を学んできたうえで、その発展を先生が例題や実験を行いながら教える場でした。したがって生徒は先生の説明が少しでもわからないと手を挙げて質問を先生にぶつけ、少しでも内容を理解しようと努力していました。さらに授業の後には毎回大量の宿題が出されました。その週に学んだことの復習として宿題が出されるのですが、計算問題の場合約10問程度なのですが、内容は恐ろしいほど難しく1問1時間以上かかるものもありました。エッセイなどの場合は1000ワード近くのを宿題として提出しなければいけなかったので長い文章を書くのですが、こんな書き方は英語にないや文章が長すぎるもっと簡潔に書くべきだ、何を言いたいのかわからないなど、容赦のないアドバイスが大量にされ文章を直すのに大量の時間を消費しました。

終わりに

交換留学を振り返り、結果としてUIUCに留学してよかったと思います。最初のうちは英語での会話が怖かったアメリカですが1年もたつとさすがになれるのでしょうか、うまくはないですが英語で会話をしようと自分から積極的に考えるようになりました。私がうまくしゃべれないのを理解したうえで、私が悩んで会話するのを待ってくれ、何が言いたいのか予想して話してくれたルームメイトには感謝しています。そしてUIUCの学生には大学は勉強の場ではなく、自分を磨くための場だと教えられました。勉強に対する熱意だけではなく、その後の就職まで明確にプランとしてまとめ

ている彼らには尊敬さえします。また英語を学ぶだけでなく文化や宗教、様々な国の人に触れたのもいい経験になりました。特に宗教というのは日本にいたらほとんど触れることがなく、興味がなかったのですが聖書勉強会などに参加することで世界の人はいかに神を信じているのだと実感しました。

最後にこの交換留学のチャンスを与えてくださった国際交流室室長札野順教授、佐藤恵一教務部長、指導教員の藤木信彰准教授、国際交流室スタッフの皆様、今回の交換留学に協力してくださった皆様に感謝しています。留学というチャンスをくださって、本当にありがとうございました。

以上で交換留学報告を終わります。